

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-540	22-310	慶應義塾大学 加藤眞三
題名 (原題/訳)		
<p>Randomised clinical trial: effect of adding branched chain amino acids to exercise and standard-of-care on muscle mass in cirrhotic patients with sarcopenia.</p> <p>無作為化臨床試験：サルコペニアを有する肝硬変患者の筋肉量に対する運動と標準治療に分岐鎖アミノ酸を追加する効果</p>		
執筆者		
Mohta S, Anand A, Sharma S, Qamar S, Agarwal S, Gunjan D, Singh N, Madhusudhan KS, et al		
掲載誌		
キーワード	PMID	
サルコペニア、肝硬変、運動、分岐鎖アミノ酸、QOL	35469091	
要 旨		
<p>背景： 肝硬変における筋肉量の改善における分岐鎖アミノ酸 (BCAA) の役割については、現在のところ議論の余地がある。</p> <p>目的： サルコペニアを有する肝硬変患者を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、筋肉量の改善における BCAA の役割を評価する。</p> <p>方法： Child-Pugh スコアが 10 未満でサルコペニアを有する肝硬変患者を、在宅運動プログラム (30 分/日)、食事カウンセリング、標準的な内科療法に加えて、BCAA を 12g/日経口投与する群とプラセボを 6 ヶ月間投与する群 (1 : 1) に無作為に割り付けた。サルコペニアは、性別ごとの軸性骨格筋指数 (SMI) のカットオフ値に従って定義された。主要評価項目は、サプリメント摂取 6 ヶ月後の CT スキャン (SMI) に基づく筋肉量の変化とした。</p> <p>結果： 60 名の患者 [平均年齢 41.6±9.9 歳 ; 男性 (66.6%)、ウイルス性肝硬変 (40%) およびアルコール性肝硬変 (31.7%) が主体] が無作為に割り付けられた。MELD スコア (10.2±2.8 対 12.2±3.5、p=0.02) と摂取カロリー (1838.1kcal±631.5 対 2217.5kcal±707.3、p=0.03) がプラセボ群で高かった以外は、ベースラインの臨床的および人口統計学的特徴は同様であった。ベースラインの交絡因子であるベースラインの SMI と蛋白質摂取量の両方を調整した後、intention-to-treat 解析により 6 ヶ月後の SMI の変化は両群で同程度であった [平均調整差 (MAD) +0.84、CI - 2.9; + 1.2、p=0.42]。ハンドグリップストレングスの変化 (p=0.65)、6m 歩行速度 (p=0.20)、6 分間歩行距離 (p=0.39) などの副次的アウトカムは両群で同様であった。軽度の有害事象は両群とも 4 例であった。</p> <p>結論： サルコペニアを有する肝硬変患者において、運動療法、食事カウンセリング、標準的な薬物療法に BCAA を追加しても筋肉量は改善しなかった。(CTRI/2019/05/019269)。 試験登録番号 CTRI/2019/05/019269 (Clinical Trials Registry of India)。</p>		